

自転車競技におけるメディカルサポートの現状と問題点

○磯本 慎二¹⁾, 熊井 司²⁾, 河原 郁生²⁾, 土肥 義浩²⁾, 富和 清訓²⁾,
田中 康仁²⁾, 笠次 良爾³⁾

¹⁾ 済生会奈良病院 整形外科

²⁾ 奈良県立医科大学 整形外科

³⁾ 奈良教育大学教育学部 保健体育講座 学校保健・スポーツ医学研究室

【はじめに】

近年、健康志向の高まりに伴って自転車競技人口は増えつつあり、自転車競技に対するメディカルサポートの需要も増加すると予想される。我々は1998年より自転車競技におけるメディカルサポートを行ってきたので、その現状と問題点を報告する。

【一般参加自転車レースにおけるメディカルサポート】

日本最大級のマウンテンバイクレースであるシマノバイカーズフェスティバルおよびロードレースであるシマノ鈴鹿ロードにおいて救護班として参加し、外傷の実態調査を行ってきた。大会中は外傷者の処置を行うとともに、受傷者から事故発生地点や受傷状況を確認している。これにより事故の多発地点と原因を早期に確認し、運営者にコースの改良や選手への注意を促すように指示することができる。また、大会終了後に外傷の多発地点や重症者の発生地点を調査し、その原因を分析して運営者に報告している。これにより運営者の次回大会における外傷予防対策に役立っている。

【プロサイクリングチームにおけるメディカルサポート】

プロチームであるシマノレーシングのチームドクターとして、そのメディカルサポートを行っている。選手の傷害の治療を行う他に、日本三大会である、ツアーオブジャパン、ツールド北海道およびジャパンカップに帯同ドクターとして参加している。また、近年問題となっているドーピングには特に注意を払っている。シーズン終了時には最大酸素摂取量や乳酸閾値を計測して、その後のトレーニングやレースに活用している。

【今後の問題】

メディカルサポートに参加している医師は少なく、ほとんどのプロチームにはチームドクターがいない状況である。今後の自転車競技の発展に伴い、より多くの医師の自転車競技への参加を望んでいる。